

# 平成27年度 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰者候補者リスト

表彰区分	番号	推薦元	都道府県等	ふりがな氏名等	取組内容
企業	1	北海道	北海道	ハナモト ケンセツ カブシキガイシャ 花本建設株式会社	平成8年に自然木の伐採木・伐根樹等をチップ化するプラントを設置し、チップ化した伐採木・伐根樹等を、家畜の敷材やミズを活用した有機肥料にすることにより、産業廃棄物の排出ゼロに取組んでいる。
	2	北海道	北海道	ホツカイドウ カブシキガイシャ 北海道コカ・コーラボトリング株式会社	平成12年より、自社工場内より排出される廃棄物について、受入・調合・充填・パッケージ等すべての工程及び事務所でリサイクルを進める「ゼロ・エミッション活動」に取組み、平成13年よりリサイクル100%を達成している。
	3	青森県	青森県	カブシキガイシャ mizuuro株式会社	平成24年に野菜や果物等の残さを資源化し、それを原材料とした「おやさいクレヨン」の商品化に成功した。現在では、クレヨンだけでなく、自然素材でできた様々な商品を考案しており、残さの削減・リサイクルに努めている。
	4	岩手県	岩手県	カブシキガイシャ ニッコー・ファインメック株式会社	昭和55年の設立以来、金属回収や多品目の取扱ができる産業廃棄物処理業者として活動を続け、現在では、岩手県で初となる小型家電リサイクル法に基づく大臣認定を受けるなど、他事業者の規範となる活動を展開している。
	5	岩手県	岩手県	サンギョウ シンコウ カブシキガイシャ カマイシ ジギョウシヨ 産業振興株式会社釜石事業所	平成23年から、東日本大震災で発生したがれき中の金属くずを独自に考案した最適加工選別処理法により、処理量5.88万tの内99.1%を再資源化し、最終処分量の削減に取組んでいる。
	6	静岡県	静岡県	フジノミヤ セイソウ ユウゲンガイシャ 富士宮清掃株式会社	昭和46年から市の家庭ごみや資源ごみの収集を行うとともに、古紙回収事業を通じて学校への環境教育・資源循環教育に役立っている。
	7	静岡県	静岡県	カブシキガイシャ フジエダ ノウサン カコウ ジョ 株式会社藤枝農産加工所	平成22年からフルーツ缶詰等の製造工程で発生する高濃度シロップをバイオガス化し、燃料として有効利用することで、廃棄物の発生抑制や化石燃料使用量減少による温室効果ガス排出量を削減している。
	8	鳥取県	鳥取県	サンコウ カブシキガイシャ 三光株式会社	昭和56年より、多品目の廃棄物の適正処理及びリサイクルを実施し、生ごみや下水道汚泥の堆肥化、廃棄物処理の際に発生するエネルギーを利用した発電を行う等、サーマルリサイクルに積極的に取組んでいる。
	9	岡山県	岡山県	オカヤマ カブシキガイシャ バイオディーゼル岡山株式会社	平成20年より、岡山市と協働により、一般家庭、飲食店、食品製造工場等より排出される廃食用油から高品質なBDFを製造している。また、小学生等へ工場見学の機会を提供する等、環境教育を積極的に行っている。
	10	徳島県	徳島県	ニッシン ボウ カブシキガイシャ トクシ 日清紡ホールディングス株式会社 徳島事業所	当該事業所から排出される廃棄物の大半を占める動植物残さ(いちご葉)を自然乾燥させ、バイオマス燃料としてリサイクルを開始した。その結果、事業所内の廃棄物を99%以上リサイクルすることに成功している。
	11	福岡県	福岡県	シバタ サンギョウ カブシキガイシャ 柴田産業株式会社	平成20年から小型家電の回収事業を開始するとともに、平成24年には産業用電子機器に含まれる tantalum のリサイクルについて、世界で初めて事業化に成功した。
	12	福岡県	福岡県	イリウ ホウジン マナツル カイ コクラ ダイイチ ビョウイン 医療法人 真鶴会 小倉第一病院	病院食の食品残さから堆肥をつくる活動を平成8年から開始。農業を営む患者に、作った堆肥を配布し、それを用いて栽培した野菜を使って食事を提供するという循環型社会を病院内で形成している。
	13	佐賀県	佐賀県	カブシキガイシャ 株式会社イワフチ	容器包装リサイクル法の施行以前よりペットボトルのリサイクルに取り組んでいる。また、平成11年から福祉施設と連携して、施設利用者の積極的な雇用を推進するとともに、学校・団体等への工場見学受入れや環境出前講座を行っている。
	14	熊本県	熊本県	カブシキガイシャ ニホン 株式会社日本リモナイト	平成13年に、下水処理施設等で発生する硫化水素の吸着剤の再生技術を確認した。本技術により、これまで埋立て処分していた吸着剤を再生利用できるようになり、再生原料の確保とともに、資源の枯渇防止に貢献できるようになった。
団体	15	富山県	富山県	セイカツ キョウドウ クミアイ ナマ 生活協同組合CO・OPとやま生ごみリサイクル研究会	平成5年から生ごみの減量化・リサイクルに関する研究を行い、堆肥化促進剤「ぼかし肥」を開発した。その他、環境教育・普及啓発に取り組んでいる。
	16	静岡県	静岡県	アタミ ジョセイ レンラクカイ 熱海女性連絡会	平成15年、熱海女性連絡会を中心にマイバック運動を展開し、その後、市と協働で可燃ごみ減少のための雑がみ回収事業を推進している。
	17	京都府	京都府	トクテイ ヒエイリ カツドウ ホウジン カンキョウ キョウ 特定非営利活動法人KES環境機構	平成19年より、企業内で3Rを推進していくために立てるべき計画、環境マネジメントに係る相談に対し助言等を行い、廃棄物の排出をゼロにする循環型産業システムの構築に尽力している。
	18	福岡県	福岡県	チキウ オンダンカ カンガ キタキョウシユウ シミン 地球温暖化を考える北九州市民の会	平成9年から活動開始し、「楽しみながらできることを始めよう」を合言葉に、家庭のエネルギー利用、ごみの減量化等、我が家でできるCO2削減運動に取り組んでいる。
	19	鹿児島県	鹿児島県	オオサキ マチ エイセイ ジチ カイ 大崎町衛生自治会	平成10年より缶・びん・ペットボトルの分別収集に際し、ごみステーションでの立会活動などを通じて分別収集の向上を図るとともに、本活動による徹底した分別の取組の結果、処分場の大幅な延命化が図られた。また、環境情報誌の発行を行うことにより、普及啓発活動にも取り組んでいる。
個人	20	3R活動推進フォーラム	広島県	オガワ イサオ 小川 勲	平成13年度より現広島県資源循環協会理事に就任し、平成23年度には協会会長として、適正処理、不法投棄防止、3Rの推進に向けた同協会活動の主導的役割を果たしてきた。さらにNPO法人広島循環型社会推進機構副理事長等として各種リサイクル技術の開発等に貢献している。
	21	宮崎県	宮崎県	モリスエ トモコ 森末 富子	平成17年より、ごみを出さない暮らしを目指し、エコクッキングの実践、庭の雑草や枯れ木、果物の皮を使った堆肥づくりを進め、一般家庭の一日平均排出量の10分の1という減量に成功している。その活動が環境啓発紙等で取り上げられるとともに、県の環境保全アドバイザー等として環境学習の推進にも貢献している。